



光 迪

「みんなちがって みんないい」

～自分の周りの仲間、そして自分を大切にできる土岐っ子をめざして!～

校長 加藤 隆史

5月の学校報で、本校の一人一台タブレットの取組について紹介しました。

子どもたちは授業で、職員も会議や研修でタブレットを活用する場面が増えてきました。今後は、タブレットを使用する際の約束ごとを全校で確認しながら、さらによりよい活用を図っていきます。



さて、金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」を皆さんも一度は読んだことがあるのではないのでしょうか。この詩は、鈴と小鳥と私がそれぞれの特色をもって生きていることの素晴らしさが

表現されています。

それとともに、この詩の終わりの「鈴と、小鳥と、それから私」という一節に深い意味があると私は考えます。鈴という「もの」、小鳥という「生き物」を私という「人」と同じか、それ以上に大切にしようという思いを、この一節で表現しようとしたのではないかと私は思います。

「鈴(もの)や小鳥(生き物)、それぞれに『よさ』がある。だから、私にも『よさ』がある。鈴、小鳥、それから私どれも大切な存在だよ。」というところから「みんなちがって、みんないい」という言葉が生まれたのではないのでしょうか。

人というのは、ときに「みんなと一緒になくてはならない」という同調意識で行動してしまい、「み

んなと一緒に」でないことに対して、軽はずみな言動で、相手を傷つけたり、悲しませたりすることがあります。そんなとき、この詩のように一人一人の存在価値、そして自分自身のよさに気づかせていくことが何よりも大切です。

そこで、今月はすべての学級で、それぞれの発達段階に合わせて「お互いにちがいを認めよう」ことの大切さについて考える道徳や学活の授業を実施する予定です。

こうした「お互いのちがいを認め合い、仲間も自分も大切する心」を育てていくことは今年度の本校の重点の一つです。こうした心を育てることが、土岐小学校のすべての児童が自分のよさを発揮して安心して学べる学校になるものと信じています。

私と小鳥と鈴と

金子 みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くはしれない。
私がかからだをゆすっても
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄はしらないよ。
鈴と、小鳥と、それから私
みんなちがって、みんないい。